

第 3 回検証委員会における議論に関する追加資料

1. 子どもの貧困問題・子ども支援に関する古賀市の状況

■ 「古賀市子どもの未来応援プラン」における相対的貧困率及び子どもの貧困率

階層	世帯の割合	子どもの割合
等価可処分所得中央値（225 万円）以上の階層	52.1%	47.5%
等価可処分所得中央値未満から 60%以上の階層	24.7%	27.4%
等価可処分所得中央値の 50%以上 60%未満の階層	5.9%	6.1%
等価可処分所得中央値の 50%未満の階層（貧困線未満）	17.3%	19.1%

（貧困率算出について）

小・中学生のいる保護者を対象にした調査（子どもの生活に関するアンケート）で得られたデータをもとに「相対的貧困率」及び「子どもの貧困率」を算出しており、調査対象が限定されているため、国が公表している子どもの貧困率等とは純粋な比較ができない。

※子どもの貧困に関する古賀市の指標

指標		古賀市数値
アンケート対象	アンケート項目	
小学 6 年生	小学 6 年生で 1 週間の朝食の頻度について 「毎日食べる」以外を回答した割合	18.0%
中学 3 年生	中学 3 年生で 1 週間の朝食の頻度について 「毎日食べる」以外を回答した割合	21.8%
保護者	ひとり親家庭の保護者の仕事について 「正社員・正規職員」と回答した割合	42.3%
保護者	子育てに関する相談相手の必要性・有無について 「相談できる人はいないが必要性を感じている」と回答した割合	6.4%
保護者	ひとり親家庭で、子育てに関する相談相手の必要性・有無について 「相談できる人はいないが必要性を感じている」と回答した割合	18.8%

（古賀市の指標について）

子どもの貧困の問題は所得以外にも多くの要因が関連しており、古賀市ではアンケートの結果を踏まえ、独自に指標を設定することにより、指標の改善に向けた取組を推進する。

2. 子どもの支援（子どもの貧困問題）に関するNPOの取組

■HUGっこティーンズ

- ・「特定非営利活動法人子どもパートナーズHUGっこ」が運営主体。さまざまな生きづらさを抱えた思春期の子どもたちが、安心してのんびりと自由に過ごすことのできる時間と空間を確保する。市内の施設（千鳥苑）で週1回開催。
- ・主な対象者は経済的に厳しい家庭の子どもだが、対象を限定した活動にはしたくなかったため、来たい子どもは誰でも来られるような居場所づくりをめざしている。
- ・生活体験や一緒に食事をする体験の乏しい子どももおり、各自でおにぎりを作り、皆でみそ汁や差し入れのお惣菜などを食べている。握ったおにぎりは持って帰ってもいいことにしている。
- ・生活課題を抱えた子どもが多いことから、フードバンクと連携し、必要な家庭への食料支援もあわせて実施している。

3. サンコスモ古賀の施設活用状況（子どもの支援関連）

■つどいの広場「でんでんむし」

- ・乳幼児とその保護者がいつでも利用したい時に自由に利用でき、親子で一緒に遊ぶことのできる場所を常設する（平成17年7月開設）。

■7か月っ子広場、1歳誕生広場、2歳元気っこ広場

- ・子どもの年齢の節目に応じて集まる機会をつくり、身体測定、親子遊び、育児支援等を行う（毎月1回、2歳児は偶数月1回開催）。

■わんぱくタイム

- ・春・夏・冬休み期間中に、すこやかホールを開放し、子どもが自由に遊べる場所をつくる。

4. 近隣自治体の条例・基本方針等の作成時期

自治体名	条例・基本方針等	施行日
宗像市	市民参画・共働及びコミュニティ活動の推進に関する条例	平成18年1月1日
福津市	みんなですすめるまちづくり基本条例	平成20年12月1日
太宰府市	自治基本条例	平成29年4月1日
小郡市	協働のまちづくり実施計画	平成27年3月
古賀市	まちづくり基本条例	平成29年4月1日

5. つながりひろば（中間支援）の特長的な取組

取組名	内容
NPO法人への運營業務委託	つながりひろばの運營業務を、市民活動の中間支援に取り組むNPO法人（特定非営利活動法人エコけん）に委託し、民間と行政とが共働でより効果的な市民活動支援に取り組む体制を確立した（令和元年度～）。
Facebook、Instagram、LINE を活用した情報発信	従来から行っていた市ホームページ及びFacebookによる情報発信に加え、InstagramやLINEを開始。 Instagramは「見せる」団体紹介を意識したもので、より多くの市民へのアピールをねらった。 LINEは個人や学生向けに始めたが、そこでボランティア募集をすることでこれまでとは異なる層に呼びかけることができるようになった。
学生に向けたボランティア活動の周知・促進活動	市民活動のさらなる広がりをめざし、若年層（学生）に対するアプローチを積極的に行っている。 中学校におけるボランティア入門講座の実施、学校（中・高校）へボランティア募集の依頼など。 また、ボランティア証明書制度を導入したことで、特に学生にとってはボランティア参加に対するインセンティブが働いていると考えられる。
登録団体への担当者割り当てによる充実した支援体制の確立	つながりひろばに登録している団体へ担当者を割り当て、団体への聞き取り調査を行うことで、その団体の現状、抱える悩み、活動の可能性等を把握。団体の状況に合わせた適切な支援ができるようになっている。
異文化交流事業の実施	小中学校の子どもがいる外国人移住者と日本人ボランティアが、日常の身近な話題について気軽におしゃべりをする場を設ける。ボランティアに参加する人の増加や外国人との相互理解が深まることをめざす。

6. 災害時応援協定の締結状況（一部抜粋）

緊急避難場所	サンリブ古賀	立体駐車場
	(株) 正興電気製作所	Lサイト2階多目的ホール
	福岡県動物愛護センター	敷地内（建物内除く）
	やまびこ幼稚園	敷地内
応急食糧の提供	ファウンテンデリ（株）	おにぎり10,000個
	山崎製パン（株）福岡工場	菓子パン類5,000個
物資の供給	(株) サンリブ古賀	衣料品、日用品、食料品 等
	(株) こが金物	補修資材
応急対策業務	三輪工務店	応急処置・復旧、障害物の除去 等
	(株) 白川設備工業	応急処置・復旧、障害物の除去 等